

臨床研究に関する公開情報

横須賀共済病院では、より良い診断・治療を目標として様々な臨床研究を行なっております。今回下記の臨床研究を実施いたしますので、研究の計画・方法についてお知りになりたい場合、患者さまご自身のカルテ情報や検体・試料を研究に利用されることをご了承できない場合などがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、研究にご了承できないことをお申し出なされた場合でも、患者さまの診療に不利益が生じることは一切ございません。

[研究課題名] 経皮的気管切開の際の挿管チューブ位置についての研究

[研究責任者] 横須賀共済病院、救急科医師、道下貴弘

[研究の概要] 気管切開術には経皮的気管切開術と外科的気管切開術の2種類があります。経皮的気管切開術は気管支鏡で確認しつつ、第一もしくは第2気管軟骨を穿刺し、ダイレクションして気管切開チューブを挿入する手技です。穿刺の際には挿管チューブを適度に抜いて穿刺位置と挿管チューブが重ならないようにすると添付文書に記されていますが、挿管チューブを何cmの位置まで抜くべきか定量的に調べた研究は存在しません。

外科的気管切開の際には気管を開窓し挿管チューブを目視しながら挿管チューブを抜いていき、挿管チューブが見えなくなった位置で止めて、気管切開チューブを気管内に留置します。外科的気管切開の時に気管切開チューブ挿入の位置が経皮的気管切開の際にも適切な挿管チューブの位置です。当院救急科で外科的気管切開を行った際に上記の挿管チューブの位置を計測し、症例を集積します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

救急科で外科的気管切開を行った患者さま

●研究に用いるカルテ情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別、身長、体重

[研究の期間] 横須賀共済病院 臨床研究倫理委員会 審査承認後から

2026年3月31日まで

[問い合わせ先]

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報・試料が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

〒238-8558 神奈川県横須賀市米が浜通 1-16

国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院

電話 046-822-2710 (代表) (平日 午前8時30分から午後17時15分まで)

FAX 046-822-9139

研究責任者：救急科 医師 道下貴弘

*お問い合わせ内容によっては、こちらから改めてご連絡をさせて頂くことがあります。

あらかじめご了承ください。

以上